

第19回JAMS研究大会

●日 程: 2010年12月11日(土)、12日(日)

●会 場: 防衛大学校・人文科学館

所在地: 〒239-8686 神奈川県横須賀市走水 1-10-20

●プログラム

◆12月11日(土)

13:00 開会挨拶 西尾寛治(防衛大学校)

13:10-16:10 共通論題(1)

テーマ「ポスト・マハティール期の方向性:政治・経済の変動とベクトル」

近年のマレーシアの政治、経済、外交の変化をトレースし、何が、いかに変化してきたか、もしくはしていないか、という点を整理しつつ、ポスト・マハティール時代においてマレーシアが進もうとしている方向について検討する。

趣旨説明・司会:金子芳樹(獨協大学)

報告 1: 中村正志(アジア経済研究所)「転換期のマレーシア政治:投票行動の変化がもたらした UMNO 制度改革」

報告 2: 吉村真子(法政大学)「NEP の再考:見直しの議論をめぐって」

報告 3: 鈴木絢女(マラヤ大学)「対外政策における新動向:対 ASEAN、東アジア、アメリカ関係を中心として」

討論者:小野沢純(拓殖大学)

16:15-17:30 会員総会

17:30-19:30 懇親会

◆12月12日(日)

9:30-12:30 個別研究

司会:田村慶子(北九州市立大学)

9:30-10:15 報告(1)

長谷川悟郎(桜美林大学・非常勤講師)「カピット・バレー流域、イバンの妖怪グラシと護符信仰」

10:15-11:00 報告(2)

荒川朋子「マレーシアの軍事行政:最近の組織状況と PKO センター設立について」

11:00-11:45 報告(3)

西芳実(立教大学)「災害支援と地域研究:インドネシアの事例」

12:45-15:45 共通論題(2)

テーマ「マレーシアにおける公正なる秩序の構築:近現代における諸相」

「公正」をキーワードとしてマレーシアの個別性を追究する試みの第2回目。

今回は、植民地期の2事例(スランゴール、ペナン)と現代の国際交流の事例に焦点をあてる。

趣旨説明・司会:西尾寛治(防衛大学校)

報告1:坪井祐司(立教大学)「英領期スランゴルのマレー人社会におけるアディル概念」

報告2:篠崎香織(北九州市立大学)「越境に伴う不当な暴力への対処:海峡植民地の華人の事例」

報告3:Omar Farouk(広島市立大学)「Malaysia and Muslims in Mainland Southeast Asia」

討論者:宮崎恒二(東京外国語大学)

15:45 閉会挨拶 宮崎恒二(会長/東京外国語大学)